三鷹市立第　中学校　令和8年度 【数学】 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	○単元ごとの章末テストと本人の希望により、習熟度別クラス編成を章ごとに行った。これにより、授業内容を習熟度に合わせたものにすることができ、学力の定着を図ることができた。 ○定期考査や単元プリントで間違い直しを徹底し、さらに学力の定着を図ることができた。 ○基礎コースにおいては、個別指導をより丁寧に行い、学年全体に向けても定期考査前などに質問教室を開くなどした。 ◎家庭学習の習慣が身につくように授業で学習した内容をその日のうちにワークで演習をするように指導できた。また、テスト実施後に解き直しをさせることができた。	○基礎的な知識は習得しているが、それを応用して考えることが難しい。そのため、問われ方が変わるだけで理解できなくなる。 ○ワークの答え合わせを疎かにする生徒が多く、問題に対しての深い理解が得られていない生徒が多い。また、解答のみを求める傾向にあり、途中式を含めたプロセスが大切にされていないため、同じミスをする生徒が多い。 ○わからない問題をそのままにして解き直しをしない生徒がいる。 ◎家庭学習を習慣化するように宿題プリントやワークで指示を行い、その際も知識・技能が定着するように途中式を省かないよう指導する必要がある。	○基礎クラスにおいては、小学校の基礎計算で引っかかっている生徒も多いため、反復学習を行っていく。 ○定着・発展クラスにおいては、発展的な内容まで授業で扱い、数学的な思考力を養っていく。必要に応じて個別指導を丁寧に行い、クラス変更を適宜行う。 ○板書をとる時間と説明を聞く時間のメリハリをつけさせ、教員の細かなアドバイスやポイントを聞き逃さないように強弱をつけて指導する。 ○学び合いを目的とした課題解決学習として、毎授業での発問を工夫し、論理的に筋道を立てて説明させるように工夫する。 ○「三鷹市小・中一貫カリキュラム」を活用する。 ◎家庭学習の習慣が身に付くように、授業の最後の問題を次回までの宿題にし、次の授業で答え合わせをする。
第2学年	○単元ごとの章末テストと定期考査結果及び本人の希望により、習熟度別クラス編成を分野ごとに行った。これにより、授業内容を習熟度に合わせたものにすることができ、学力の定着を図ることができた。 ○定期考査や章末テストで間違い直しを徹底し、さらに学力の定着を図ることができた。 ◎家庭学習の習慣が身につくように授業で学習した内容をその日のうちに宿題プリントで演習をするように指導できた。また、テスト実施後に解き直しをさせることができた。	○基礎的な知識は習得している生徒は8割程度いるが、思考・判断・表現が求められる問題が出るとつまづく生徒が増える。 ○ワークや宿題の答え合わせを疎かにする生徒が多く、問題に対しての深い理解が得られていない生徒が多い。また、解答のみを求める傾向にあり、途中式を含めたプロセスが大切にされていないため、同じミスをする生徒が多い。 ○わからない問題をそのままにして解き直しをしない生徒がいる。 ◎毎時間、宿題プリントを課題として配布しているが、取り組む生徒と取り組まない生徒がはっきり分かれている。また、テスト前に一気に取り組む生徒もいる。継続性が大事なことを改めて指導する必要がある。	○基礎クラスにおいては、中学校の基本的な内容を定着を目指す。計算力をつけさせるため、必要に応じて個別指導を丁寧に行うだけではなく、プリントなどを使用し、反復学習を行っていく。 ○定着・発展クラスにおいては、発展的な内容まで授業で扱い、数学的な思考力を養っていく。必要に応じて個別指導を丁寧に行い、クラス変更を適宜行う。 ○板書をとる時間と説明を聞く時間のメリハリをつけさせ、教員の細かなアドバイスやポイントを聞き逃さないように強弱をつけて指導する。 ○学び合いを目的とした課題解決学習として、毎授業での発問を工夫し、論理的に筋道を立てて説明させるように工夫する。 ○「三鷹市小・中一貫カリキュラム」を活用する。 ◎家庭学習の習慣が身に付くように、授業の最後の問題を次回までの宿題にし、次の授業で答え合わせをする。
第3学年	○単元ごとの章末テストと本人の希望により、習熟度別クラス編成を分野ごとに行った。これにより、授業内容を習熟度に合わせたものにすることができ、学力の定着を図ることができた。 ○定期考査や章テストで間違い直しを徹底し、さらに学力の定着を図ることができた。 ○授業をプリントで行なうことにより、板書を写す時間を減らし、授業を聴くことと演習することの時間を大きく増やした。 ◎家庭学習の習慣が身につくように授業で学習した内容をその日のうちにワークで演習をするように指導できた。また、テスト実施後に解き直しをさせることができた。	○基礎的な知識や技能は身に付いているが、思考・判断・表現が求められる問題が出るとつまづく生徒が増える。 ○間違えた問題に対しての分析をできる生徒は増えてきたが、くり返し問題を解くことをしている生徒はまだまだ少ない。 ◎ワークを定期考査直前にまとめて取り組む生徒がいる。今日学んだことを今日振り返ることができるようにワークへの取り組み方を改めて伝える必要がある。	○基礎クラスにおいては、中学校の基本的な内容を定着を目指す。プリントやeライブラリなどを使用し、反復学習を行っていく。 ○定着・発展クラスにおいては、発展的な内容まで授業で扱い、数学的な思考力を養っていく。必要に応じて個別指導を丁寧に行い、クラス変更を適宜行う。 ○板書をとる時間と説明を聞く時間のメリハリをつけさせ、教員の細かなアドバイスやポイントを聞き逃さないように指導する。 ○説明を簡潔にし、生徒が演習できる時間を多くとる。 ○学び合いを目的とした課題解決学習として、毎授業での発問を工夫し、論理的に筋道を立てて説明させるように工夫する。 ○「三鷹市小・中一貫カリキュラム」を活用する。 ◎家庭学習の習慣が身に付くように授業で学習した内容をその日のうちにワークで演習をするように指導する。また、テスト実施後に解き直しを課題として提示する。